50th Anniversary

結成50周年記念誌

北海道商工会青年部連合会

結成50周年記念誌

先人達と共に
未来へつなぐ意思

IMPULSE 北海道商工会青年部連合会

商工会青年部宣言

＜第１回青年部全国大会　大会宣言・平成11年２月３日決議　北海道札幌市＞

～かけがえのない人たちと、かけがえのない地域の為に～

われわれは、自己の利益追求のみならず、国家を基盤とした社会の恒久的な平和と繁栄を実現する。

若き事業家として、何人にも侵されない自立した経営を確立し、地域の商工業を躍動させ、地域の一員としてその責任を自覚すると共に先人の教えに学びつつ、未来に向けた活力ある社会を創出する。

この美しい国、日本に生きる者として、地球の環境問題を捉え、われわれだけでなく、次世代の人々の為にも、継続的な運動を推し進める。
そして、全ての国家、民族との交流を積極的に図り永続的共生を同じ時代を担う者としてここに誓う。

誓いの言葉

１．われわれ商工会青年部は、
創造力と行動力をいかし、
地域振興発展の先駆者となる。

１．われわれ商工会青年部は、
商工会の後継者であり、将来の中核として、
組織活性化の推進力となる。

１．われわれ商工会青年部は、
社会一般の福祉の増進に努め、
新しいまちづくりの原動力となる。

インパルスとは

IMPULSE

商工会青年部に課せられた問題や事業に取り組むための合言葉として、推進力、心の衝動、刺激の意味を持つ“ＩＭＰＵＬＳＥ”をイメージキャラクターとしました。
インパルスの“Ｉ”をデザイン化することで日本列島を表現しさらに“Ｉ”で始まる次のキーワードを商工会青年部のテーマに掲げて活動しようとする意図を表現したものです。

- ◆　Ｉｎｄｅｐｅｎｄｅｎｃｅ　（自立）
- ◆　Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　（情報）
- ◆　Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　（国際）
- ◆　Ｉｎｃｕｂａｔｉｏｎ　（創出）
- ◆　Ｉｎｔｅｒｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　（交流）

発刊のごあいさつ

北海道商工会連合会
会長　荒尾 孝司

北海道商工会青年部連合会が結成50周年を迎えるにあたり、記念誌『先人達と共に未来へつなぐ意思』を発刊できますことは、誠に意義深く慶びにたえません。

北海道商工会青年部連合会の歩みは昭和42年２月15日に、北海道商工会連合会青年部が結成され、その後、昭和62年に、現在の北海道商工会青年部連合会へと名称を変更し、本日まで50年の長きにわたって、道内における青年部組織の拡充強化と事業推進に努めてまいりました。

現在、全道152商工会すべてに青年部が設置され、各地域において活発な事業活動を展開していることは、誠に心強い限りであり、これも偏に、関係機関各位のご指導とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

また、今日の青年部連合会の基礎を築かれ、組織の発展にご尽力されました歴代会長をはじめとする役員の皆様のご労苦に対して敬意を表するものでございます。

商工会及び商工会連合会における青年部の位置づけは、地域商工業の総合的な改善発達を図ることを目的とした商工会にあって、商工会活動の中核をなす実践者として、また、組織の後継者として地域づくりに積極的に参画し、社会的にも高い評価を得るまでになりました。

商工会青年部がさらなる発展を遂げるためには、これまで培ってきた青年たちの創造力と行動力を活かし、152商工会青年部が結束して、商工会組織あるいは地域商工業の活性化に向けて若い力を存分に発揮されることを期待しております。

最後に、本誌の発刊にあたって、各商工会、商工会青年部のご協力と関係機関各位のご指導ご支援を賜りましたことを心からお礼申し上げ、記念誌発刊にあたっての挨拶といたします。

発刊にあたって

北海道商工会青年部連合会
会長　仁木 義人

昭和42年２月15日に北海道商工会連合会青年部が結成され、昭和62年５月北海道商工会青年部連合会への名称変更を経て、この度50周年の節目を迎え、記念事業の一環として本誌を発刊する運びとなりました。

先輩達が限りなき情熱とたゆまぬ努力により、幾多の厳しい社会経済環境を乗り越え、今日の確固たる組織を築かれましたことに、私たち青年部員一同、心から敬意を表する次第でございます。

私たちは、先輩達の志を引き継ぎ、青年部組織の強化と事業の推進に積極的に取り組んでまいりました。特に、「若手後継者等育成事業」による補助事業を中心に青年部の経営力向上を図り、新商品開発・販路開拓支援や先進的な地域振興事業への支援など、全道的なネットワークとスケールメリットを活かし、目まぐるしく変化する経営環境に即した事業を進めてまいりました。

この間の関係機関の皆様のご支援、そして青年部員の皆さんの積極的なご協力に対し、厚くお礼を申し上げます。

この50周年のテーマを、「先人達と共に未来へつなぐ意思　～故郷を想い、仲間と共に、50年後の大切な後輩達のために～」として、道青連役員15名が心に刻み、この一年、事業を進めてまいりました。

これまでにご尽力いただいた先人達の功績を讃え、もって商工会青年部の使命と、果たすべき役割の重要性を改めて認識、共有することにより、さらなる地域の経済・社会の振興に資する契機とし、故郷と仲間を想い、次の50年につなげる意思をここに示すものであります。さらには先輩達が築いてきた商工会青年部への想いと魂を受け継ぎ、50年後を見据えて未来を背負う大切な後輩達へ引き継いでいくためにも、その架け橋として、今、ここにいる仲間たちが手を取り合い、地域、組織、企業を守り共に成長していくことが我々の責務であります。

我々青年部員は地域振興発展の先駆者として、常に広い視野に立った行動力と青年の持つ豊かな創造力を発揮して、新たなる飛躍を期する覚悟でおりますので、関係機関の皆様には変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本誌作成に際して、関係機関や各商工会のご指導、ご協力、さらには管内商工青連・単位青年部から資料や情報の提供を賜りましたことに心からお礼申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

記念誌の発刊に寄せて

経済産業省
北海道経済産業局局長
児嶋 秀平

北海道商工会青年部連合会が結成50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴連合会は、昭和42年の結成以来、各商工会青年部の組織活性化をけん引し、地域経済の振興・発展はもとより、社会福祉の増進にも大きく貢献してこられました。また、研修会や講習会等の各種事業を通じて若手後継者の資質向上や育成に取り組まれ、部員事業者の経営力の向上や持続的発展を支援されてきました。こうした活動を力強く推進された歴代の会長を始め役員並びに各商工会青年部の皆様の御尽力に対し、深く敬意を表する次第です。

さて、我が国経済は、政府における名目ＧＤＰ600兆円の実現に向けた「日本再興戦略2016」や総事業規模28兆円に及ぶ「未来への投資を実現する経済対策」等の着実な実行により、好循環が拡大しています。こうした動きを地域でもより確かなものにするためには、地域経済の担い手である中小企業・小規模事業者の生産性向上に向けた設備投資を活発にし、雇用確保や賃上げ等に取り組める事業環境作りが重要です。

このため、経済産業省では、「中小企業等経営強化法」を通じた生産性向上への集中支援や、創業・事業承継の一体的な促進、よろず支援拠点等の支援機関の機能・連携強化など、事業者に寄り添った支援の充実を図ることで、中小企業・小規模事業者の事業活動を強力に後押ししてまいります。さらに、北海道経済産業局といたしましても、「強い北海道経済」実現のため、地域の現場に足を運び、各種施策を総動員し中小企業の「攻め」の経営を支援するとともに、自然災害等の危機に備える「守り」の経営として、中小企業の「ＢＣＰ（事業継続計画）」策定を推進してまいります。

貴連合会におかれましては、これまで以上に経営者の育成や部員事業者の経営力強化に取り組まれるとともに、各商工会青年部の皆様が地域経済の若手リーダーとして、活動しやすい環境作りを推進され、事業者の成長・持続的発展を主導していただきますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会の結成50周年を契機といたしまして、各商工会青年部の皆様が更に連携を深められ、北海道経済の発展に向けて一層御尽力されることを期待するとともに、関係各位のますますの御発展、御活躍を御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

北海道商工会青年部連合会
結成50周年を祝して

北海道知事
高橋はるみ

北海道商工会青年部連合会の結成50周年を心からお祝い申し上げます。

商工会青年部連合会の皆様におかれましては、昭和42年の結成以来、若手経営者・後継者としての資質向上等を図るための研修会や地域資源を生かした商品開発の支援等に取り組まれ、会員企業の発展はもとより、地域産業の活性化に大きな役割を果たしてこられました。歴代の役員、会員の皆様のこれまでのご尽力に対し、深く敬意を表します。

さて、近年、本道経済は、外国人来道者数が過去最高を記録し、雇用も改善するなど、緩やかに持ち直してきている一方で、全国を上回るスピードで人口減少が進行し、各産業における人手不足や生産・消費の縮小などによる地域経済の活力低下が懸念されています。

こうした中、道では、道産食品の輸出拡大や外国人観光客による海外需要の取り込みを加速するとともに、中小・小規模企業の経営体質の強化や事業の承継、女性や若者の創業、地域資源を活用した商品開発の促進、さらには、新エネルギーの開発や活用促進、健康長寿産業の振興など、地域産業力の底上げを図り、地域経済の強化に取り組んでいるところです。

道といたしましては、今後とも皆様としっかりと連携し、地域の経済と雇用を支える中小・小規模企業の皆様の支援に努め、活力ある地域社会の実現に向けて全力を尽くしてまいりますので、北海道商工会青年部連合会の皆様におかれましても、結成50周年というこの節目を機に、これからの北海道を支える若き経営者として、創造性あふれる斬新な発想と行動力のもと、地域の企業活動の活性化と魅力的な地域づくりに向け、ますますご活躍されますことを心からご期待申し上げます。

目次

発刊のあいさつ　北海道商工会連合会　会長　荒　尾　孝　司 ……2
発刊にあたって　北海道商工会青年部連合会　会長　仁　木　義　人 ……3
祝　文　北海道経済産業局　局長　児　嶋　秀　平 ……4
祝　文　北海道　知事　高　橋　はるみ ……5

第１章　先人と共に未来へつなぐ意思～道商工青連50周年記念
Part1 商工会青年部活動から地域のリーダーに ……7
Part2 商工会青年部活動から次のステージを ……13
Part3 100年へ向けて引継がれていく商工会青年部の意思 ……17
Part4 北海道商工会青年部連合会結成50周年記念式典 ……18

第２章　道商工青連の歩み
1　単会青年部と道商工連青年部結成の動き ……23
2　結成から事業の拡充に向けた動き ……24
3　経済環境の変化と事業展開の動き ……25

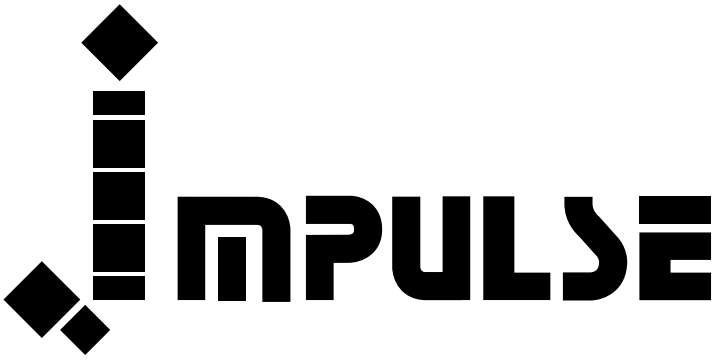
第３章　現在の道商工青連事業
1　若手後継者等育成事業の推移 ……29
2　経営者育成連携促進事業：商品力強化支援研究会 ……30
3　エクセレントカンパニー視察研修事業 ……32
4　後継者育成塾 ……33
5　地域リーダー養成事業 ……34
6　地域振興パイロット事業・ベンチャーキッズ支援事業 ……35
7　青年部全国大会・代表者視察研修事業 ……37
8　東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会 ……39
9　青年部指導者中央研修会 ……40
10　経営者育成研修会 ……40
11　交通安全推進事業 ……41
12　道商工青連会長賞 ……42

＜資料編＞
1　道商工青連歴代役員一覧 ……43
2　現行組織図 ……49
道商工青連・管内商工青連の概況 ……51
各青年部の概況 ……59

編集後記 …… 135

第１章

先人と共に未来へつなぐ意思
～道商工青連50周年記念



Part1 商工会青年部活動から地域のリーダーに

平成28年度は、記念すべき結成50周年を迎えるにあたり、道商工青連役員はテーマを「先人達と共に未来へつなぐ意思」～故郷を想い、仲間と共に、50年後の大切な後輩達のために～とし、記念式典を含む事業を実施することとした。

このテーマは、50周年の節目を100周年への折返しと位置づけ、先輩たちが過ごしてきた50年から学び、100年へ向けて後輩たちに引き継いでいく責任を負う！という覚悟が込められている。

札幌市で開催された記念式典（平成29年２月21日）では、荒尾道商工連会長の基調講演と、仁木道商工青連会長がコーディネーターとなり、荒尾道商工連会長、佐近音威子府村長、菅原喜茂別町長、竹内道議会議員、小川羅臼町商工会長の５名をパネラーとしてパネルディスカッションを開催した。

第１部　基調講演

「故郷を想い、仲間と共に、50年後の地域と企業のために」

北海道商工会連合会 会長　荒尾 孝司

私が、商工会青年部に入部したのは昭和51年でありました。当時の商工会青年部は部員数も相当多く、ピーク時には6,200名程おりました。

現在、北海道には152単会ありますが、大体100単会くらいの商工会の会長さんは青年部出身者です。しかし当時は、青年部出身の会長というのはほとんどいませんでした。

そのような中、私が商工会青年部長を務めていた当時、親会の筆頭副会長を第2代の青年部長に、ということで総会に臨みました。

その後、筆頭副会長となった第2代青年部長は健康上の理由で商工会長は引き受けられなくなり、全く役員経験のない会員が商工会長になりました。

その時、青年部の仲間の後押しもあり、青年部長である私が親会の副会長に就任することとなったのです。その後、私は38歳で青年部長を引退して、5年後の43歳の時に商工会長になりました。

当時、バブルはすでに崩壊しており、中小・小規模企業は10年で120万社がなくなっていました。その後、地方で活躍している皆さんがもっと安心して頑張れるように、と制定されたのが小規模企業振興基本法なのです。

この小規模基本法の理念に基づき、小規模事業者持続化補助金などが政策に組み込まれました。それまで、国が直接小規模事業者を対象に補助金を出すというのは未だかつてない政策でした。そして持続化補助金の採択を受けるためには経営計画が必要となります。

荒尾道商工連会長による基調講演の様子

これまでも経営計画を立てて下さいと言ってきたわけですが、中々進んでいませんでした。しかし、現在、青年部を中心とした若い人たちは経営計画の見直しを一生懸命行っています。

経営計画をきちっと立てた企業は利益が出ているという結果が出ていますので、会員さんの経営に大きく寄与していると思うのです。

私は道連で勉強になったのは、『決断できる』トップがいた、ということです。皆さんも青年部活動や企業経営において決断できるようになって下さい。

この先50年ということで、皆さんに望むことですが、自分の単会で地域を愛して、高い希望を持って日本一の青年部、日本一の青年部連合会にするという気概をもって前に進んでいただきたい。

大変厳しい時代ですが、今の青年部であれば地域を愛して何とか後輩や子どもにつなげていけると思います。

これからの青年部員にエールを送る荒尾道商工連会長

第２部 結成50周年記念パネルディスカッション

「故郷を想い、仲間と共に、50年後の大切な後輩達のために」

パネラー
北海道商工会青年部連合会
第15代会長
羅臼町商工会長
小川　雅勝

パネラー
北海道商工会青年部連合会
元副会長
北海道議会議員
竹内　英順

パネラー
北海道商工会青年部連合会
第10代会長
喜茂別町長
菅原　章嗣

パネラー
北海道商工会青年部連合会
第９代会長
音威子府村長
佐近　　勝

パネラー
北海道商工会連合会
会長
荒尾　孝司

コーディネーター
北海道商工会青年部連合会
会長
仁木　義人

仁木義人道商工青連会長がコーディネーターを務め、基調講演を行った荒尾孝司道商工連会長をはじめ、商工会青年部卒業後、様々な分野で活躍している、佐近勝音威子府村長、菅原章嗣喜茂別町長、竹内英順北海道議会議員、小川雅勝羅臼町商工会長の５名の皆様をパネラーに迎え、パネルディスカッションを開催し、全道の商工会青年部員に熱いエールを送った。

道商工青連時代の思い出や当時の事業など

仁木　パネラーの皆様からそれぞれ、自己紹介も兼ねまして、道商工青連時代の思い出や当時の事業などについてお話頂きたいと思います。

佐近　道北の音威子府村の村長をしており、今年で７年目を迎えます。村の人口は800人を切っておりまして、北海道で一番小さい村です。商工会長も８年ほどやらせていただいていました。

思い出ということですが、北海道商工会青年部連合会を北海道を代表する青年部の組織にし

なければならない、という思いがありました。当時の事業では北海道フェアin代々木というイベントが非常に思い出に残っております。

菅原　全道の青年部員の数くらいの小さな町で首長をしており、13年目に入っています。

青年部時代の思い出ですが、さきほど佐近さんも言っていました、北海道フェアin代々木です。私はパンダのぬいぐるみ担当でありました。

そして、町長選に出なきゃならないという時にお金がない中での町長選となり、その時、青年部連合会の仲間に支援していただきました。その時は敗れたのですが、商工会青年部の仲間には感謝しております。これも大きな宝です。

最後に、この「Impulse」というバッジは、全青連の副会長をやらせていただいた時、商工会青年部はお金はないかもしれないけど志はあるぞ、ということでＪＣに匹敵するくらいのものを作ろうじゃないかということで、私が担当となってデザインしました。今でも使っていただいており、涙が出るくらい嬉しいですね。

竹内　私は昭和57年から３年間、国会議員の秘書を務めておりました。昭和60年に地元美瑛町に戻ってきまして、すぐに商工会青年部に入部し、先輩にご指導いただき地元で頑張ってきました。私は、政治の力で北海道の地域をもっと良くしていきたいと随分前から思っていました。

平成７年、35歳の時に現役青年部長で北海道議会議員に初当選させていただきました。その時、商工会青年部の仲間が一生懸命応援してくれたことを今でもはっきり覚えています。

青年部時代の思い出は、北海道フェアin代々木において、食のブースを担当したわけですが、鉄砲汁、ジンギスカン、焼き蟹、そしてアイスクリームなど青年部の皆さんの動きが大変素晴らしく、２日間で30万人の人が来て、商工会青年部の底力を再確認して地元に戻ったことが強く印象に残っています。

小川　私は道商工青連理事を４年やりまして、３期目に会長という流れになりました。

私がいた６年間というのは、今の青年部と先輩達の時代の青年部のちょうど変わり目だったと思います。

佐近　勝 音威子府村長（第９代道商工青連会長）

１期目のときは青年部女性部活動推進費がまだありました。２期目から若手後継者等育成事業になってきたという状況で、色んな議論があったことが思い出されます。

また、私の思い出で外せないのは選挙です。現在の経済産業副大臣である松村さんとは全青連で同期でありまして、現役青年部員が出馬する国政選挙でした。その時、私が全国の取りまとめ役だったのですが、商工会、商工会青年部の声を国に届けたいということで活動したことは、苦労しましたが大きな思い出です。

現在の役職に就いたきっかけ

仁木　青年部員時代に、次のステージを意識することと、地域のリーダーとして様々な事業に取り組み、トレーニングを積むことが重要であることと思いますがここで、現在の役職に就かれたきっかけや、いつ頃から意識をされたのか、などについてお伺いしたいと思います。

荒尾　私が商工会の今の立場になったきっかけは２人の会長さんがおりました。当時、上川管内の商工会長の中で、私は43歳で一番若かったのですが、「次の時代は若い人に継いでいってもらったほうが上川管内の将来にとって良いだろう」ということで、私を次の管内会長ということで指名していただきました。

また、当時の道連会長も「若い会長が次の時代を担うべきだ」という考えがあったので、いずれそういう時期が来るのだろうという意識は

菅原　章嗣 喜茂別町長（第10代道商工青連会長）

ありましたが、私の一代前の連合会長が平成24年の総会終了後間もなく突然辞任され、私が会長職を引き継ぐことになりました。

実は、50年の歴史の中で東北北海道ブロックの中で北海道がブロック長になったことがありません。ブロック長とは全国連の副会長になることでもあります。50年の歴史の中で北海道から全国連の副会長になったことがないというのは忸怩たる思いがありますので、チャンスがあれば、北海道で初めて全国連の副会長をやるという気概をもっていきたいと思います。

みなさんもそういう機会があれば、その時に巡ってきたチャンスをモノにしていくことが企業経営においても重要ではないかと考えています。

佐近　人口が減っていくということは数が減っていくということですが、数が減ると何が起こるかと言いますと、人間の思いや活力や機能などが合わせて失われるということです。商工業に置き換えますと、１業種１店舗の店が欠けると、その地域の生活機能が失われるという状況がわが村にも訪れております。そうなると、当然のことながら廃業が続きます。

地域が音を立てて崩れているという危機感をずっと持っていたところ、当時の首長が辞めることになりました。私は、人口が少ないということは１人の価値が非常に大きいし、地域のコンセンサスが取れやすいので、機動性を活かした地域を作っていこうじゃないかと常日頃言っておりましたので、立候補を表明して首長となったところであります。

菅原　町議会議員になったのは35歳の時です。町議を２期務めました。その中で青年部長もやりながら議会もやり、道商工青連も全青連という、それぞれのステージで勉強させてもらったということが今の職につながっています。青年部の時、まちづくりについて、道路はこうした方が良い、商店はこうした方が良いということで随分やりあったものです。それは議会活動と共に青年部活動でも議論しました。しかし、新たなまちづくりがしたいと思っていましたが、青年部活動だけでは難しいなと感じていました。なぜかというと、まちづくりには相当のお金がかかります。これを実行する為には青年部員では実行できません。そういう中で首長というのは予算の執行者ですから、そこ（首長になること）は意識した方が良いのかな、と考えていました。そして町長選において２回目に当選させていただきました。

竹内　大学を卒業してすぐに３年間、代議士の秘書をやっていました。そして地元に戻りましたが、有名な国会議員の方々は30代からそれぞれの地域で青年団活動や色々な活動の中から国会議員として当選を果たしてきている場面を見させてもらって、やるなら若いうちから出なければ、という思いを強くもって北海道に戻ってきました。

平成５年に地元の青年部員をはじめとする上川管内の商工会の皆様のご支援で初当選ができました。やはり地域に活力をもたらすのは商工会青年部であります。私は政治の世界から何か地域が元気になることができないか、という思いをもっています。やはり若いうちに、地域に対しても自分の町に対しても行政に対しても、もっともっと自分達でやっていくという思いをこれからの皆様にも是非、持っていただきたいという想いです。

農協は合併が進み、それぞれの町に農協がない地域がある中で、商工会はあります。そして商工会青年部が地域を支える一番の原動力になっていかなければいけません。そのためには青年部だけではなくて町議会議員もそれぞれ活躍の場を見つけていただいて、様々な角度から町や地域や北海道を見ることができる才能も培っていただければな、という想いです。

小川　私は26歳くらいに青年部に入りました。30歳くらいになった頃、状況が色々見えてきて、いずれ私が部長になるんだろうなという想いはもっていました。

当時管内会長は持ち回りでしたので、私が部長になると管内会長が重なってくるということもありました。

それから道商工青連では２期目に副会長になることが目標でしたが、副会長枠の関係から理事を４年やることになったわけです。

それで道商工青連を引退しようと思ったのですが、先輩から会長を指名していただきました。先ほど荒尾会長が仰っていたチャンスを掴むか掴まないかということです。全青連の副会長については、荷が重かったのですが、悩んだ結果、チャンスを掴むということを考え、決意をして副会長を引き受けました。結果、全青連副会長になって気づいたことがあります。商工会青年部とは地域人として、組織人として、そして企業人として育成する場であることを勉強させてもらいました。仲間ができたことも含めて生涯の財産になったと思っています。

親会の会長という立場も青年部のときから当然もっていました。青年部というのは親会の育成機関ということでありますから、青年部でしっかり勉強したことを親会で力を発揮する、そのための青年部組織ということだと思います。

だから、青年部長を務めた後は、町の為に親会の会長になるという考えは、当然のことだろうなという風に思っています。

後輩たちに向けた
先輩からのエール

仁木　最後に、次の50年を見据え、未来に向けた活動を各地域で頑張り続ける後輩たち、現役青年部員へ皆様からエールを頂ければと思います。

佐近　皆さん達はリーダーではありますが、様々な課題の解決の時に多くの仲間達と課題を共有して、解決方法をステップ・バイ・ステップで行ってほしいですね。小さな成功体験を積み重ねて、踊り場までたどり着いたら、またみんなと力を合わせて次の踊り場まで、といった小さな成功を積み上げていくといった取組みを、皆さん達はもちろんでありますが、次の世代の方々にも繋げていっていただければと思っています。

菅原　ずっと言い続けていますが、商工会は町の顔です。色々な組織がなくなっても商工会は各町村に残っているわけです。商工会青年部がまちづくりを行うということは、商店を新しくするということではなくて、町の姿勢をも変えられる力があるんじゃないか思っています。思い込むことというのは実は大事なことでありまして、それが若さではないかと思っています。この若さを最大限の武器にして欲しいなと思っています。そして、新たな町や村の顔を商工会青年部が作ってもらえれば有難いなと思っています。

一方、新幹線が来る、高速道路もどんどん出来てくるのは北海道としては良いことですが、ストロー現象というのがありますので喜んでばかりはいられません。どうぞ商工会青年部で培った経験と知恵で、それに打ち勝つだけの力を是非発揮してもらいたいなと思っております。

商工業者というのは、時代や場所によってどんどん変化できる、そういう力が元々あるのではないか、そういう点では狩猟民族に近いと思っております。

本来の農耕民族的な部分を捨てるということではなく、拠点はそこに置いておいても気持ちは儲けるために頑張るというようなことは決して忘れないでご努力いただきたいと思っております。

竹内　英順 北海道議会議員（元道商工青連副会長）

小川　雅勝 羅臼町商工会長（第15代道商工青連会長）

竹内　北海道は外国人観光客、インバウンドを500万人という目標を掲げながら前に進めています。我々商工会地域にも必ず外国人観光客はこれから増えていきます。管内単位でも結構だと思いますが、青年部の皆さんで勉強会などを立ち上げていただいて、商工会青年部が主体となって、インバウンドを取り込む仕掛けを是非やってください。そういった意味において、これからの50年、地域が盛り上がるような活躍を皆さんに期待しています。

小川　北海道の商工会青年部は地域のために一生懸命活動しています。事業実績も全国のトップを走っていると思っております。

だからこそ、北海道商工会青年部連合会が存在感をさらに発揮する為にも全青連の会長を北海道から輩出してほしいと思います。

青年部活動も企業経営もトップを目指して下さい。期待しています。

荒尾　私は未だに私の出所というのは商工会青年部だと思っています。50代に入っても息子が地元へ戻ってくるまでは、賛助部員として商工会青年部に籍をおいていました。

常日頃、言っておりますが、地域の中核として次の時代を迎えるためには商工会青年部の活躍以外にないわけであります。青年部はどんなに部員が少なくても農協青年部や役場の若い人たちと連携して、何とか地域を残して将来に進んで行っていただきたい。

それをできるのは商工会青年部だけだ、という自負を持っています。

是非、皆さんには地域のリーダーとして頑張ってもらって、次の50年、後輩に、そして自分達の子どもにつなげていっていただきたいと思います。頑張って下さい。

仁木　パネラーの皆様、本日はお忙しいところ、我々商工会青年部のために駆けつけていただきありがとうございました。

荒尾　孝司 道商工連会長

Part2 商工会青年部活動から次のステージを

青年部活動から次のステージで活躍されている先輩達から次世代を担うリーダーたちへつなぐ

記念事業として平成28年11月22日及び平成29年１月20日に札幌市にて実施した「地域リーダー養成事業」では、その趣旨を受け、荒尾道商工連会長をはじめ、町村長や道議会議員など、次のステージで活躍されている青年部ＯＢより「現役青年部時代の想い」や「次のステージを見据えるきっかけ」などをテーマとして、２日間に分けて実施し、次世代を担う参加者に対し貴重なアドバイスをいただいた。

記念事業のテーマを受け、先輩たちが過ごしてきた50年から学び、次世代を担う後輩たちに引継いでいくことを主眼として企画し、「地域のリーダーは身近にいるじゃないか！」という気付きから、次のステージで活躍されている青年部ＯＢの方々を講師としてお招きして実施した。

※荒尾道商工青連会長のメッセージはPart1の基調講演に掲載しております。

佐近　勝（音威子府村長・第９代道商工青連会長）

道商工青連会長、商工会長、村議会議員そして村長となった佐近氏からのメッセージ

佐近　勝 音威子府村長

北海道フェアin代々木で商工会青年部が独自性を持ち、自分たちでやってみることとなった。この事業で全道の商工会青年部のネットワークをもう一度確立し、北海道を代表する青年部組織としてアピールしようとしたことが思い出される。

小さな村の首長をしているが、小さいから出来ないという事ではなくて、やり方或いは多くの仲間と力を合わせると可能だと考えている。

我々は地域の様々な資源を十二分に理解をし、その理解のゴールを「地域力」と呼んで、「人間力」と「地域力」が互いに循環していくと自立性が高まり、そしてさらに新しい活力が興き、素晴らしい地域づくりに繋がっていくと思っている。

商工会青年部は、地域のリーダーとして仲間や後輩たちに、自分たちの感動したこと、夢を持っていること、熱い思いなどを分かりやすく、時にはジョークを交えて伝えて欲しい。その積み重ねが地域に新しい若い力が生まれてくることに繋がっていくので実践してもらいたい。

菅原　章嗣（喜茂別町長・第10代道商工青連会長）

道商工青連会長、町議会議員そして町長となった菅原氏からのメッセージ

菅原章嗣 喜茂別町長

商売というのは町が良くならなければ上手くいかないと思っていた頃、商工会青年部に入部し、縁あって道商工青連会長を務めることとなった。

道商工青連時代の最大の宝物は仲間ができたことであり、これが色々

なところで生きていると感じている。

後志管内においても、当時から広域連携でイベントを実施していた。やはり単独での活動というものには限界があると当時から感じていたところである。

私が町議会議員時代に日本で初めて情報公開条例を提案したことは記憶に新しい。

そのような中、新たなまちづくりがしたいという想いもあって町長選に出馬することとなったが、当時の道商工青連の役員の支援は本当に嬉しかった。２回目の選挙で町長に当選したが、行政のトップとして戸惑いがあったものの、青年部長や道商工青連会長、全青連副会長などの経験を生かして今に至っている。

そして、町長になってからも青年部時代の活動が生きており、現在、管内の枠を超えた協議の場を持つなどしている。

皆さんも、従来の考え方にとらわれず青年部らしいチャレンジ精神をもって活動していただきたい。

竹内　英順（北海道議会議員・元道商工青連副会長）

現職の商工会青年部長・道商工青連副会長から道議会議員の要職となった、道商工青連顧問である竹内氏からのメッセージ

竹原英順 北海道議会議員

部員が50名以上いた美瑛町商工会青年部では役員になる道も険しい中で、入部５年で部長に就任したが、佐近音威子府村長と荒尾道商工連会長が既に管内役員として活躍されていた。

荒尾道商工連会長の後継として道商工青連役員となり、地域と北海道のＰＲに青年部が熱意を持ち、一丸となって北海道フェアin代々木を実施・成功できたことで改めて北海道のパワーを実感した。

地元･美瑛町、更に上川管内そして北海道を良くしていきたいとの想いから、35歳の時に北海道議会議員として政策実現を目指した。選挙の時に支えてくれた商工会青年部の仲間と地域の若い方々の支援は生涯忘れることのない大切な思い出である。

北海道は外国人観光客の誘客に力を入れており、我々商工会地域にも大きなチャンスが訪れる。これからの青年部活動は、まだ眠っている地域資源を掘り起こして地域ＰＲによって地域を盛り上げて欲しい。我々も青年部時代に培った人脈、あるいは経験を生かしながら頑張っていきたい。

各分野で活躍されている商工会青年部ＯＢから熱いメッセージをいただいた（撮影：平成28年11月22日）

冨原　　亮（北海道議会議員・道商工青連顧問）

北海道議会議員の要職にあり、道商工青連顧問、そして地元七飯町商工会青年部の現役部員である冨原氏からのメッセージ

冨原　亮 北海道議会議員

商売をするフィールドが多岐に渡っていてもやはり、生まれ育ててくれたそして今正に商売を営んでいる町が一番大切である。

その後、管内青年部活動に参加することなり、各町の青年部員が地元をＰＲするディスカッションの機会があった。他の部員は胸を張って発表していたが自分はできなかった。この衝撃が理想のまちづくりを勉強するきっかけとなった。その中で、私に共感してくれた役場職員、ＪＡ青年部とのネットワークを構築したことが財産となっている。

この活動から、政治の力が必要であることを感じたことが町議会議員になるきっかけとなり、更には広域的な地域づくりを意識したことで、道議会議員になった。

商工会青年部は、異業種ネットワークを広げ、行政や政治家と問題解決に取組んでいくことができる大切な組織であることを忘れずに活動して欲しい。

将来は地元で戻って、次世代につなげていけるように議員経験から更に事業の充実を進めたい。また、自分は、最初の想いへ立ち返り地元で商工会活動に貢献したい。

商工会青年部は、地域の牽引者であるので、この先の道標として先輩たちの想いが詰まった地域・環境を自分達が目指すものへと変化をさせ、現状を鑑みて理想とする未来のためにどうするか、それを次の世代に継承していき、青年部宣言にある「未来に向けた活力ある社会の創出」を共に進めたい。

山本　智幸（第19代道商工青連会長）

青年部活動を終えて、企業後継者から経営者となり、更に社会貢献に目を向ける、道商工青連理事･副会長･会長を歴任した山本氏からのメッセージ

山本智幸 第19代道商工青連会長

青年部員資格が延長され、今も部員活動は可能であるが、道商工青連会長の要職を務めたことから地元の部員には迷惑にならないようにと40歳で引退、側面支援をしている。

現在は、企業として社会貢献にも力を注ぎ、社会福祉施設を建設し低家賃事業をおこなっている。

道商工青連事業の中心となっている商品力強化支援研究会と後継者育成塾は、当時の役員とともに平成19年度に立ち上げた。

道商工青連事業の設計は正副会長が中心であったが、会長に就任した際、役員全員が関わる組織にすることが次世代のリーダーの育成と考えて取組んだ。

また、他団体青年部との交流にも積極的に力を注いだ。我々青年部は、本業を頑張るから地域振興も頑張る。本業を頑張れない人は青年部の活動をしてはいけないと考えている。

自分は、経営者として青年部員の見本になれるよう、努力を惜しまずしているところである。

当時、単会の青年部員から道商工青連役員に対して、「管内部員の代表として、発言して欲しい」「役職を勘違いして偉そうにしないようにして欲しい」「次のメンバーを育てて欲しい」「部

員が減少しているが数多くの事業に参加して欲しい」「組織の一員としてやらなければならないことを理解して欲しい」などのメッセージが送られた。道商工青連が発展する為にもこのことはこれからの役員にも伝えて欲しい。

小川　雅勝（羅臼町商工会長・第15代道商工青連会長）

地域の青年部の声を国に届けたい、との想いをもった松村祥史経済産業副大臣の全国商工会青年部連合会長時代、筆頭副会長として松村副大臣を支え、羅臼町商工会長として活躍する小川氏からのメッセージ

小川雅勝 第15代道商工青連会長

平成11年２月、第１回商工会青年部全国大会が北海道で開催され、当時、地元副部長として参加、道商工青連役員が中心となって道内部員を統率していたパワーは計り知れないなと感じた。

数年後、道商工青連会長となり、全青連副会長も務めたが、北海道の青年部の事業実績・組織力は全国のトップを走っていると改めて実感した。

そのような中、全青連会長の松村氏（現経済産業副大臣）が地域の声を国政に届けたい、との想いから現役青年部員として参議院選挙に出馬することとなり、松村会長を支えたことが今でも忘れられない。

道商工青連の１期目までは、各単会に活動推進費補助金が交付されていたが、２期目には道商工青連に一括交付となった転換期であって、理事会では予算配分について激しく議論したことが記憶に新しい。

そして補助金の配分変更によって地域の青年部活動が衰退することがないよう、14管内会長の手腕が求められる時期でもあった。

北海道は組織を結集する力が全国一だと今でも自負しているので、是非、北海道から全青連会長を輩出して欲しい。

道商工青連第15代・小川会長、同第19代・山本会長からの熱いメッセージを胸に、次世代へ受け継ぐ決意を新たにした（撮影：平成29年1月20日）

Part3 100年へ向けて引継がれていく商工会青年部の意思

～今後の青年部活動のあり方～

仁木　義人（北海道商工会青年部連合会 会長）

仁木義人 道商工青連会長

青年部活動のあり方について、全国の青年部員が一堂に会し一層の結束を図るため、平成11年２月、我らの故郷であるここ北海道に集結、記念すべき第１回商工会青年部全国大会が開催され、以下の北海道宣言を大会決議した。「かけがえのない人たちと、かけがえのない地域の為に、われわれは、自己の利益追求のみならず、国家を基盤とした社会の恒久的な平和と繁栄と実現する。若き事業家として、何人にも侵されない自立した経営を確立し、地域の商工業を躍動させ、地域の一員としてその責任を自覚すると共に先人の教えに学びつつ、未来に向けた活力ある社会を創出する。この美しい国、日本に生きる者として、地球の環境問題を捉え、我々だけでなく、次世代の人々の為にも、継続的な運動を推し進める。そして、全ての国家、民族との交流を積極的に図り永続的共生を同じ時代を担う者としてここに誓う。」

この宣言と大会テーマ「“夢と希望と”　ＮＥＸＴ　ＯＮＥ …We are full of hope and chase a dream.～恐れなき勇気、限りなき情熱、終わりなき挑戦～」は、共に脈々と全国の商工会青年部で新たな活動へと受け継がれている。

道商工青連は、企業、商工会、地域それぞれの後継者としての育成、訓練の場として、その活動を進めてきた。現在は「ネットワークとスケールメリットを活かした企業支援」を基本方針と定め、企業人であることを原点と捉え、企業の発展が未来へ導く地域づくりになると考える。

一方、少子高齢化に伴って、我々商工業者を取巻く環境はこれからさらに厳しくなっていくのではないだろうか。それでも我々は地域人として地域を守り、企業人として地域経済を支え、そして組織人として商工会青年部、そして商工会を発展させていかなければならない。

これから地域内の商工業者が減少することが想定されるが、このような時代だからこそ部員同士が互いに研鑽し、地域で愛され、かつ、強靭な企業づくりをしていくために、地域、団体の枠を越えた連携や協働が必要なのではないだろうか。

荒尾道商工連会長から「この先50年、青年部に期待することは、高い希望を持って日本一の青年部を目指し、地域を愛し、後輩や子供につなぐ」「未来に希望を作る青年部であり、地域のコーディネーターとして活躍を」とエールが送られた。

先人達が築き上げた我らの組織と地域をしっかりと引継ぎ、50周年を迎えた道商工青連が100周年に向けて、次世代のため、そして愛する地域のため、「Beyond the border ～地域、団体、世代の枠を越えた連携と協働」を我々の意思として歩み出すことを今後の青年部活動の道標としたい。

Beyond the border　地域・団体・世代の枠を越えた連携と協働

～ これからの世代と愛する地域のため ～

Part4 北海道商工会青年部連合会結成50周年記念式典

平成29年２月21日、ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、道商工青連の結成50周年記念式典などの一連の行事が実施され、高橋はるみ北海道知事、伊藤英喜北海道経済産業局産業部長、植村和宣全国商工会青年部連合会長をはじめとする来賓21名と東北六県の青年部員24名、北海道の青年部員362名が出席して節目の年を祝った。

式典は、全道14管内商工青連会長が各管内ののぼりを持ってステージに登壇後、道商工青連の平瀬晋也副会長の開式の辞で始まり、物故者に対する黙祷をささげた後、国歌斉唱、青年部の歌、青年部宣言・誓いの言葉唱和で幕を開けた。

冒頭、道商工連の荒尾孝司会長と道商工青連の仁木義人会長が式辞を述べ、荒尾会長は「商工会は、平成26年に小規模基本法が施行され、小規模企業の持続的発展を支援する経営発達支援計画や伴走型による支援が求められており、青年部員の皆さんは、企業発展のリーダーとして、また、商工会活動の中核として、地域に果たす役割に大きな期待が寄せられている」、また、仁木会長は「結成50周年の節目を迎え、私たち青年部は企業の後継者であることはもとより、商工会の後継者、地域の後継者として、先輩達が築いてきた青年部への想いと魂を受け継ぎ、50年後を見据えて、未来を背負う大切な後輩達へ引継いでいく、その架け橋となり、地域、組織、企業を守り、共に成長していくことが重要」と挨拶。

続いて、記念表彰を行い、組織の発展と事業活動の推進に尽力された道商工青連の歴代正副会長23名に対して表彰状が贈呈され、被表彰者を代表して道商工青連第16代会長の残間一憲氏が謝辞を述べた。

表彰に続いて、高橋知事、伊藤部長、植村会長から祝辞を頂戴し、来賓紹介、祝電披露を行った後、道商工青連の長山副会長の閉会の辞をもって式典を終えた。

式典に続いて行われた祝賀会では、伊藤部長、阿部啓二北海道経済部長、道商工青連顧問の高橋文明北海道議会議員、竹内英順北海道議会議員、三好雅北海道議会議員、道商工青連第9代会長佐近勝音威子府村長、道商工青連第10代会長菅原章嗣喜茂別町長、荒尾会長の８名と植村会長、竹田悦郎北海道商工会連合会副会長、石本留美子北海道商工会女性部連合会長、林栄太郎北海道商工会議所青年部連合会長、古舘聖人東北六県北海道商工会青年部連合会連絡協議会長、能登谷大輔道商工青連相談役、仁木会長の７名により鏡開きを行い、能登谷相談役の祝杯で開宴した。

途中、結成50周年記念横断幕に一層のネットワーク形成の決意を表すため、各青年部長の署名と手形押印を行い、道商工青連の前義幸副会長から「青年部員企業を支援した商品力強化支援研究会で開発、大ヒットした商品紹介」を交えながら和やかに懇談が行われ、最後に50周年事業特別委員長の大森美秋副会長が宴を締め、盛会裡に全日程を終了した。

また、記念式典に先だって、各方面で活躍されている青年部ＯＢを招いて基調講演と記念パネルディスカッションが行われた。

＜記念式典次第＞

・開式の辞　　北海道商工会青年部連合会　筆頭副会長　　平瀬　晋也
・物故者追悼
・国歌斉唱
・青年部の歌斉唱
・青年部宣言・誓いの言葉唱和
・式　　辞　　北海道商工会連合会　　会長　　荒尾　孝司

北海道商工会青年部連合会　　会長　　仁木　義人

・記念表彰　　北海道商工会連合会会長表彰(40周年記念式典以降歴代道商工青連正副会長)

道商工青連第16代会長　残間　一憲、第17代会長　渡辺　一令、第18代会長　松實　大樹、第19代会長　山本　智幸、第20代会長　能登谷　大輔

道商工青連元副会長　飯居　仁司、沢田　純一、金子　益三、水上　浩幸、本田　　学、谷口　武彦、千葉　勇一、前田　弘幹、折出　征清、長屋　正宏、澤田　　暁、柏浦　裕司、須田　一寛、丹野　勝公、斉藤　勝博、佐々木英和、筒井　貴文、阿部　博之

・来賓祝辞　　北海道　　知事　　高橋はるみ　様

経済産業省北海道経済産業局　産業部長　　伊藤　英喜　様

全国商工会青年部連合会　　会長　　植村　和宣　様

・来賓紹介

・祝電披露

・閉式の辞　　北海道商工会青年部連合会　　副会長　　長山　健太

＜ご来賓＞

北海道知事　高橋　はるみ　様、北海道議会議員　高橋　文明　様、北海道議会議員　竹内　英順　様、北海道議会議員　三好　雅　様、北海道経済産業局産業部長　伊藤　英喜　様、北海道経済部長　阿部　啓二　様、北海道経済部地域経済局中小企業課長　竹縄　維章　様、北海道経済産業局産業部中小企業課小規模企業係長　高橋　俊弘　様、全国商工会青年部連合会長　植村　和宣　様、東北六県北海道商工会青年部連合会連絡協議会長（岩手県商工会青年部連合会長）古舘　聖人　様、青森県商工会青年部連合会長　東條　一彦　様、福島県商工会青年部連合会長　河治　徹　様、　宮城県商工会青年部連合会長　小松　光　様、山形県商工会青年部連合会長　渡辺　剛　様、秋田県商工会青年部連合会長　田中　洋平　様、北海道商工会議所青年部連合会長　林　栄太郎　様、北海道商工会女性部連合会長　石本　留美子　様、北海道商工会青年部連合会第9代会長　佐近　勝　様、同第10代会長　菅原　章嗣　様、同第11代会長　半澤　孝幸　様、同第15代会長　小川　雅勝　様、同第16代会長　残間　一憲　様、同第18代会長　松實　大樹　様、同第19代会長　山本　智幸　様、同第20代会長　能登谷　大輔　様

北海道商工会青年部連合会

結成50周年記念式典

商工会青年部員362名の出席による開会

第１部 記念式典

北海道商工青連会長
式　辞

高橋はるみ北海道知事
祝　辞

北海道商工青連副会長
閉会の辞

第2部 祝賀会

蛍太鼓（日高町）によるオープニング

祝賀会開会の様子

鏡開きの様子

能登谷大輔道商工青連相談役
祝　杯

商品力強化支援研究会による
開発商品の試食会の様子

結成50周年記念横断幕への署名と手形

大森美秋50周年事業
特別委員長　締めの挨拶